出前講座「東広島の大地―八本松中学校付近を中心にして」

広島大学マスターズ会員　沖村雄二

平成 28 年 7 月 7 日（木）に、八本松中学校の総合学習で出前講義を行いました。対象の生徒は、1 学年 40 名（4 クラスからそれぞれ 10 名が希望して聴講）でしたが、ひじょうに熱心で、持参した標本－東広島市内で採取された岩石や水晶（図１）、そして小さな池で繁茂したと考えられ、寒冷気候を示すヒシを中心とした植物“化石”群（ある程度炭化していますが、現生種であることから、化石の定義である「地質時代に生きていて、現在、絶滅している」に相当しないのでいわゆる化石として説明）などについては、質問もかなりありました。

図 1．東広島市豊栄町安宿水晶山産出の族生水晶

内容としては、1）東広島市には 6 河川・11 か所の分水嶺があり、標高 400 mを超す山々の大半が、日本海ができる前の中生代の火山岩（流紋岩）からなる冠岩であり、その下位には広く花崗岩が分布していること、そして、2）50 万～70 万年前に形成された河川成の「西条層」が低地帯に広がっていることな

どを、スライドをつかって説明しました。とくに、八本松中学校付近の地下について、基盤の岩石である花崗岩の地形には、はげしい凹凸があることに注目しているようでした（図２）。

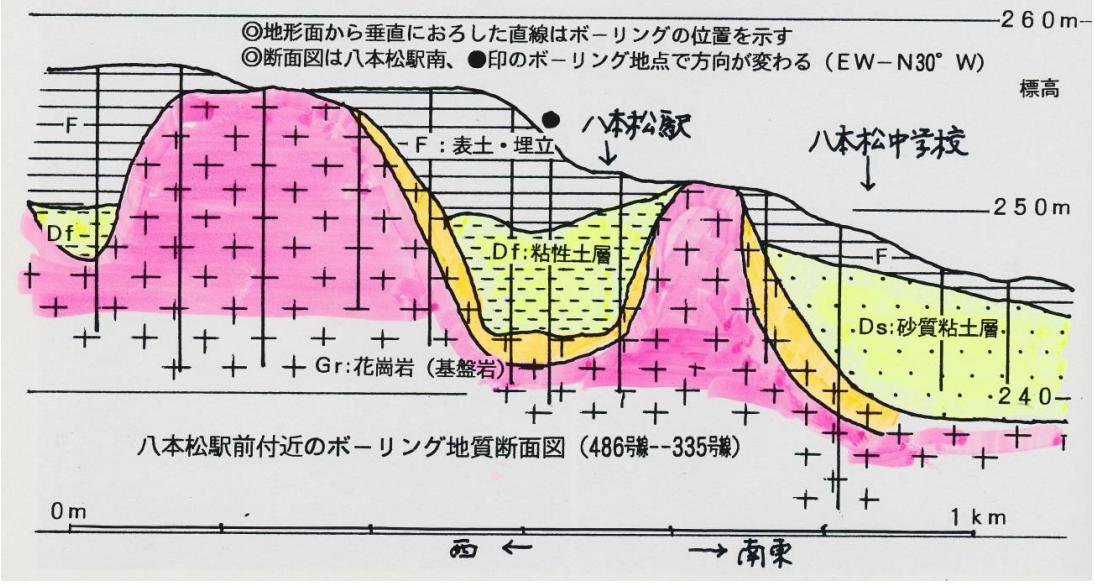

図 2．八本松駅－八本松中学校付近のボーリングによる地下地質断面図